

第6期四国中央市自立支援協議会 第2回会議 議事録

開催日時	2020年7月30日(木) 19:00 ~ 20:00				
開催場所	四国中央市保健センター1階	司会	越智	記録	石川
参加者 (敬称略)	藤枝俊之・清家 孝・一柳栄一・篠原あゆみ・近藤秀光・宮崎憲士 石水太一・大西未佳・高橋隆晋・藤原夕紀・鈴木秀明・曾我部綾・藤田昌子 以上委員13名 大西 緑(福祉部長) オブザーバー				
事務局	越智寛・高橋哲也・石川恵美子・青木重臣				

協 議 内 容

1. 開会

2. 福祉部長挨拶

日頃より各種福祉行政にご協力いただき感謝する。今年度スタートは新型コロナの影響により、さまざまな会議やイベント等が中止、延期となった。第1回は書面会議ということで、今回初めてご参集いただき開催することとなった。感染予防の観点から、マスク着用、広いスペースでの会場案内となったが、1時間程度を目安としたい。皆様には進行にご協力いただき、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. 自己紹介

4. 配布資料確認

5. 会長挨拶

今回、初めて集まっての開催となる。午前中、別の会議にも出席したが、コロナウイルスの感染に伴う問題、例えばマスクによる顔の表情がわからない、声がわからないなどの障害者にとっては新たな問題も出てきた。それらの問題にどう向き合っていくかということも含め検討いただきたい。

6. 議事(議長:藤枝会長)

第7期自立支援協議会運営方針説明。資料1ページ~4ページ(事務局)

基本方針として、障害者等が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して4つの目標を掲げ、令和2年度から令和3年度の2年間、委員の皆様にご協力をいただく。専門部会として、資源開発部会・権利擁護部会・地域共生部会を設け、自立支援協議会からの特別な案件があった場合には、特別設置部会を設けることとする。また、相談支援専門員連絡会を設け、各専門部会との情報共有を行い、それぞれの部会と連携がとれるよう構成している。

【報告事項】

(1) 専門部会活動計画について報告

①資源開発部会(部会長:大西) 資料5ページ

第6期四国中央市自立支援協議会 第2回会議 議事録

原則月1回部会開催。第6期資源開発部会が行ったニーズ調査・分析から6項目の解決策について検討する予定である。第6期資源開発部会が行った実績報告書を資料として添付した。当事者・家族・支援者のニーズとして、最重要ニーズ2項目、重要ニーズ4項目をあげた。「福祉人材の確保として、特にヘルパーの不足が深刻化している」・「休日や夜間の相談体制が不十分である」また、「新型コロナウイルスの問題とどう向き合っていくか」などの課題の具現化に向けて検討していきたい。部会内での協議を踏まえ、今年度策定される「第6期障がい福祉計画」に反映させていきたい。

②権利擁護部会（部会長：高橋）資料6ページ

部会開催は原則月1回。次回は8月5日予定。

活動目標として、成年後見制度の利用及び障がい者に対する虐待の防止等にかかる相談支援体制の構築と制度の普及啓発活動の推進、次に、四国中央市成年後見制度利用促進基本計画に基づく権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた実効性のある体制づくりの検討として活動する。活動方針として6項目あげている。これらを中心に2年間活動していきたい。

③地域共生部会（部会長：藤原）資料7ページ

部会開催は月1回。活動内容として「地域で共に生きる（暮らす）を支援する」を目標に掲げ、以下の2点について活動していく。①支援者研修会の開催、資源開発部会での最重要ニーズにもあった、福祉関係支援者の情報提供、情報共有を目的に開催したい。研修会で会う人数を少なくして、会場を分散させ、密にならないように配慮し、福祉関係者が安心して参加できる環境づくりを検討したい。話題提供については、事前録画し映像を見ながら、顔の見える関係づくりをこのような状況下ではあるが継続的に開催できればと思っている。住民理解促進については、「ぼうさい学校」という形で開催してきたが、こういった形で地域住民への啓発活動を行っていくのか、部会内で感染対策をしたうえでの啓発活動を検討していきたい。

④相談支援専門員連絡会（連絡会長：鈴木）資料8ページ

月1回の開催。この連絡会は相談支援専門員だけで構成された連絡会である。活動内容については、各専門部会等に参加しているので、その協議内容等を連絡会にて報告することで情報共有・連携強化を目指す。また新規事業所についての情報収集し、障がい福祉事業所マップ（第3版）の更新もしていく。第6期末に開催予定だった「福祉なんでも相談会」がコロナの影響で中止となった。今期について、この状況下でこういった形でできるのか、やらないというのではなく、どうやったら安心してできるのかということで、まずはやろうということで時期や方法については、別に実行委員会を立ち上げて検討する。感染症対策については、相談員としてかかわる中で、病院や事業所、各家庭で大変ご苦労されながら真剣に取り組まれている。我々はコロナ対策で国の制度も短期間でいろいろ変わってくるため、早期に情報を収集し、横の連携を取りながら情報提供できるよう情報共有していきたい。

☆質疑応答・意見交換 ……意見なし。

（議長）今期始まったばかりで、活動計画の報告でもあるので、今後取り組む中で何かありましたら意見をお願いします。

(2) 第6期 障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画について（事務局）
資料A4、第6期 障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画に係る基本方針の見直し冊子の四国中央市障がい福祉計画（第5期）。第6期資源開発部会 実績報告書。

障がい福祉計画は、障がいがある人の生活を支えるサービスなどについて数値目標などを設定し、見直しを立てるものである。令和3年度を初年度として3年間の期間で「第6期四国中央市障がい福祉計画」及び「第2期障がい児福祉計画」を作成する。具体例をあげると、A4資料の「設入所者の地域移行」令和元年度施設入所者の6%以上の目標設定となっており、8人以上が目標値になる。項目ごとに目標値を設定することになる。作成にあたっては、国の基本指針が示されており、それを基に作成することになる。基本指針の成果目標は、直近のサービスの利用状況を踏まえて見直しを行う。令和5年度末の成果目標を新たに設定する。計画策定にあたっては、上位計画との整合性を図りつつ、令和2年2月に策定された「四国中央市成年後見制度利用促進基本計画」なども参考にしたい。昨年度実施した資源開発部会のアンケート調査結果を本計画に反映させるべく、今期の資源開発部会において意見聴取を行い計画に反映させたい。（実績報告書の8ページに記載内容あり）また、資源開発部会の最重要ニーズ・重要ニーズも重複する内容があるため、資源開発部会の協力をいただきながら協議を重ねていく。

今後のスケジュールは、市の内部協議を経て、令和3年4月1日より適用させるために、次回の11月自立支援協議会本会にて承認されることを目標にする。

☆質疑応答・意見交換

(議長) 中身の内容については、どれくらいにどんな内容でというようなスケジュール予定はあるのか。

(事務局) 国の数値については決まっているので、8月に素案を作成し、資源開発部会で毎月校正を行い11月本会で図りたい。

(議長) パブリックコメントはあるのか。

(事務局) パブリックコメントは議会説明を終えてからになるので、来年1月ころを予定している。

(事務局) 障がい福祉計画と障がい児福祉計画の2本立てになっているが、発達支援課等も関係すると思うが、そのあたりの補足説明を。

(事務局) 障がい児福祉計画との関連は、資源開発部会の方に発達支援課の職員を招集して意見交換できるようにしている。

(議長) 障がい児福祉計画は見直しではなく、一から作り直すという方向になっているので整合性を取ってもらいたい。

(宮崎委員) 地域包括ケアシステムというのは、高齢者（介護）の地域包括ケアシステムとの違いはあるのか

(事務局) 第5期の計画見直しとなるため、精神障害に対応した地域移行強化に関する地域包括ケアシステムの見直しになる。

(議長) 地域包括ケアシステムに精神障害を加味するという意味か

(事務局) 高齢者部門との整合性、介護分野の計画とも整合性をとり、障がいの計画に落とし込

む。

(福祉部長) 高齢者福祉介護保険計画についても見直しの年、高齢者のことだけでなく、障がい者も含めた地域包括的なケアシステムの構築・計画を検討することになる。全世代型の地域包括ケアシステムをイメージしている。部局間で協議をしながら進めていく必要がある。

(議長) すべての部門を網羅して理解している人はいるのか

(福祉部長) それぞれの分野で法律や制約があり熟知しているものはないと思う。スペシャリストを作るのか、それとも、それぞれの分野を串刺し的に横断的に協議できる機会を設けるのか、そのあたりは混とんとしている状況であるので、その部分も含めて協議をしていかなければならない。

(議長) スペシャリティーの部分と包括的な部分をどうすみ分けたり、連携したりしていくのか十分検討していただきたい。自分たち以外の分野にも関心を持って取り組んでいかなければならない時代になった。本日の議題はすべて終了した。

7. その他（報告など）

四国中央市障がい者就職準備フェアについて報告。(ジョブアシスト UMA 曾我部委員)

昨年度は自立支援協議会とジョブアシストが協力して就労に特化した形で開催したが、コロナ禍の状況下でもあるので、まずは検討委員会を立ち上げて、開催の有無も含め検討していく。前年度の実績報告資料添付のとおり。

☆質疑応答・意見交換

(藤枝会長) 検討委員会は、この自立支援協議会内での委員会においての立ち上げになるのか、それとは別に任意の会として立ち上げるのか。

(曾我部委員) 検討委員会ということで、自立支援協議会（常任委員会）とは別に立ち上げたい。昨年度は自立支援協議会の協力（予算や人的協力）をいただくこともあり、自立支援協議会において議題を出して承認いただきながら進めてきた。今後、開催となった場合は、実行委員会とし、いろいろ協力いただくことになるので、その時は自立支援協議会においても議題として提案させていただく。

(鈴木委員) 自立支援協議会専門部会において第5期まで就労支援部会があったが、第6期には専門部会の再編成があり、その後はジョブアシスト UMA が中心となって実行委員会という形で立ち上がり、自立支援協議会が予算的協力をするということもあったため、本会の中で報告されてきた経緯がある。

(清家副会長) 就労に関して、あいまいな形ではなく、必要であれば、以前にもあったような専門部会も必要になってくるのではないか。

(事務局) 今回はコロナ禍の状況下でもあるので、今年度フェアを開催するかどうか、開催の方法などを検討する検討委員会を立ち上げて、その検討委員会において、開催するとなった場合、実行委員会とし、自立支援協議会の協力を得ることになれば議題提案してもらおう。

自立支援協議会における特別設置部会というのは、自立支援協議会で協議しなければならない重要な案件があった場合に、特別設置部会を検討するものであるた

第6期四国中央市自立支援協議会 第2回会議 議事録

め、検討委員会は自立支援協議会の枠組みにはならない。

(藤枝会長) 自立支援協議会の枠組みの中で、諮問・協議できることはやっていくが、就職準備フェアの検討委員会については、報告という形で進めていていただきたい。

8. 閉会・連絡事項

今年度の自立支援協議会及び部会報告会の日程について。

感染症の流行状況によっては、書面開催となる可能性もある。次回、11月26日(木)19時
市民交流棟2階会議室。